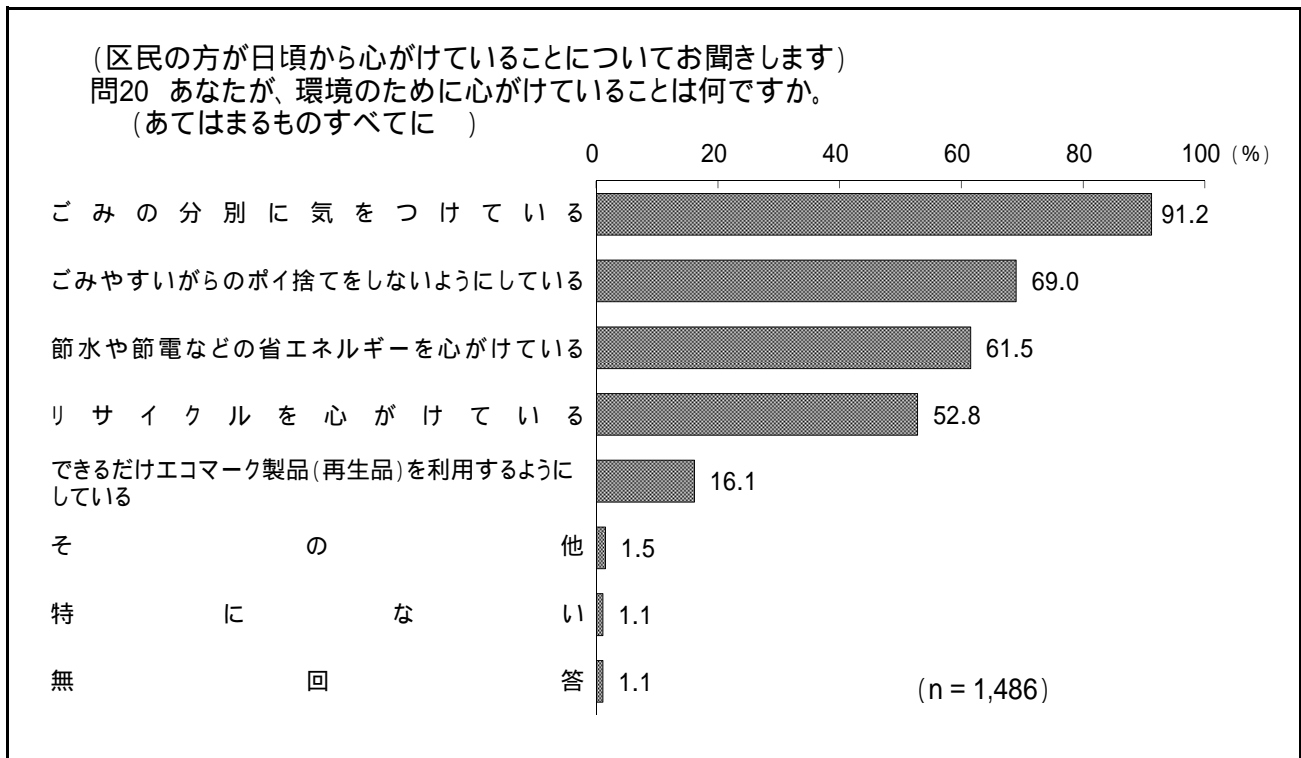


4 日常の区民生活

(1) 環境のために心がけていること

「ごみの分別に気がつけている」が最も多く90%強



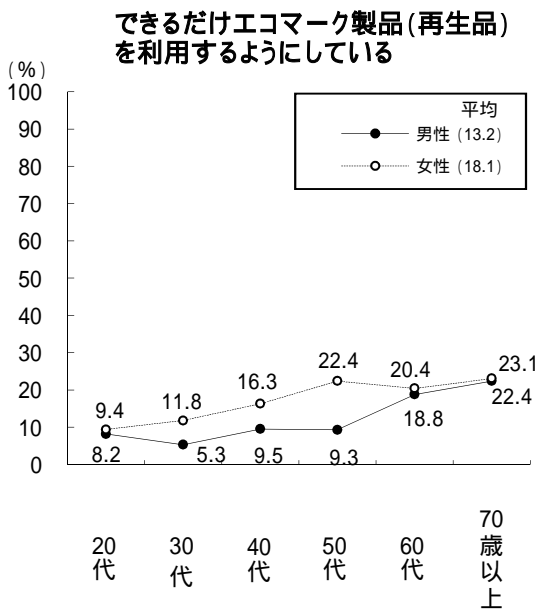
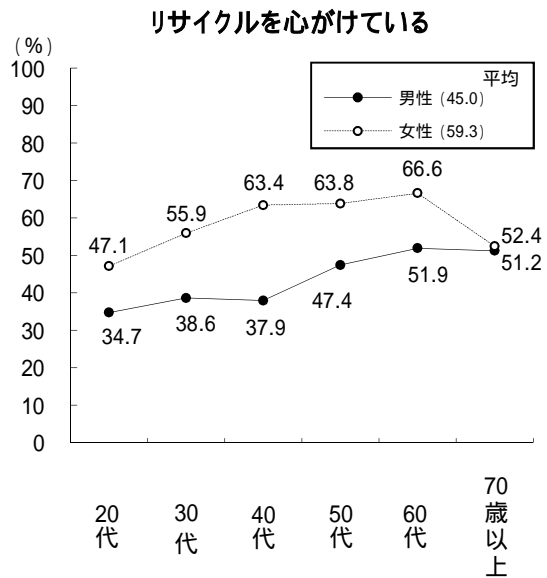
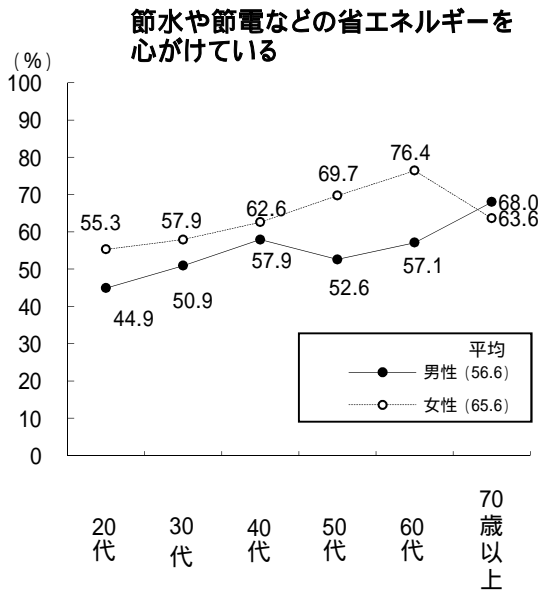
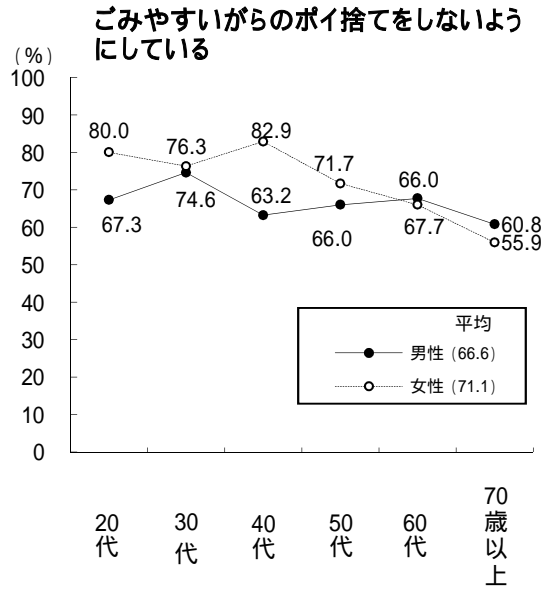
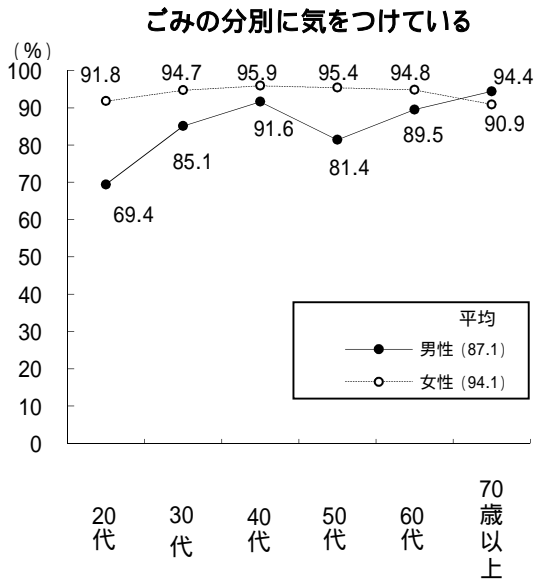
環境のために心がけていることを聞いたところ、「ごみの分別に気がつけている」が91.2%と最も多く、次いで「ごみやすいがらのポイ捨てをしないようにしている」(69.0%)、「節水や節電などの省エネルギーを心がけている」(61.5%)が上位にあげられている。

性・年代別にみると、図4-1-1のとおりである。「ごみの分別に気がつけている」は、女性は全ての年代で90%をこえている。男性では40代と70歳以上のみである。

「ごみやすいがらのポイ捨てをしないようにしている」は、80%台で女性40代(82.9%)と女性20代(80%)の順となっている。

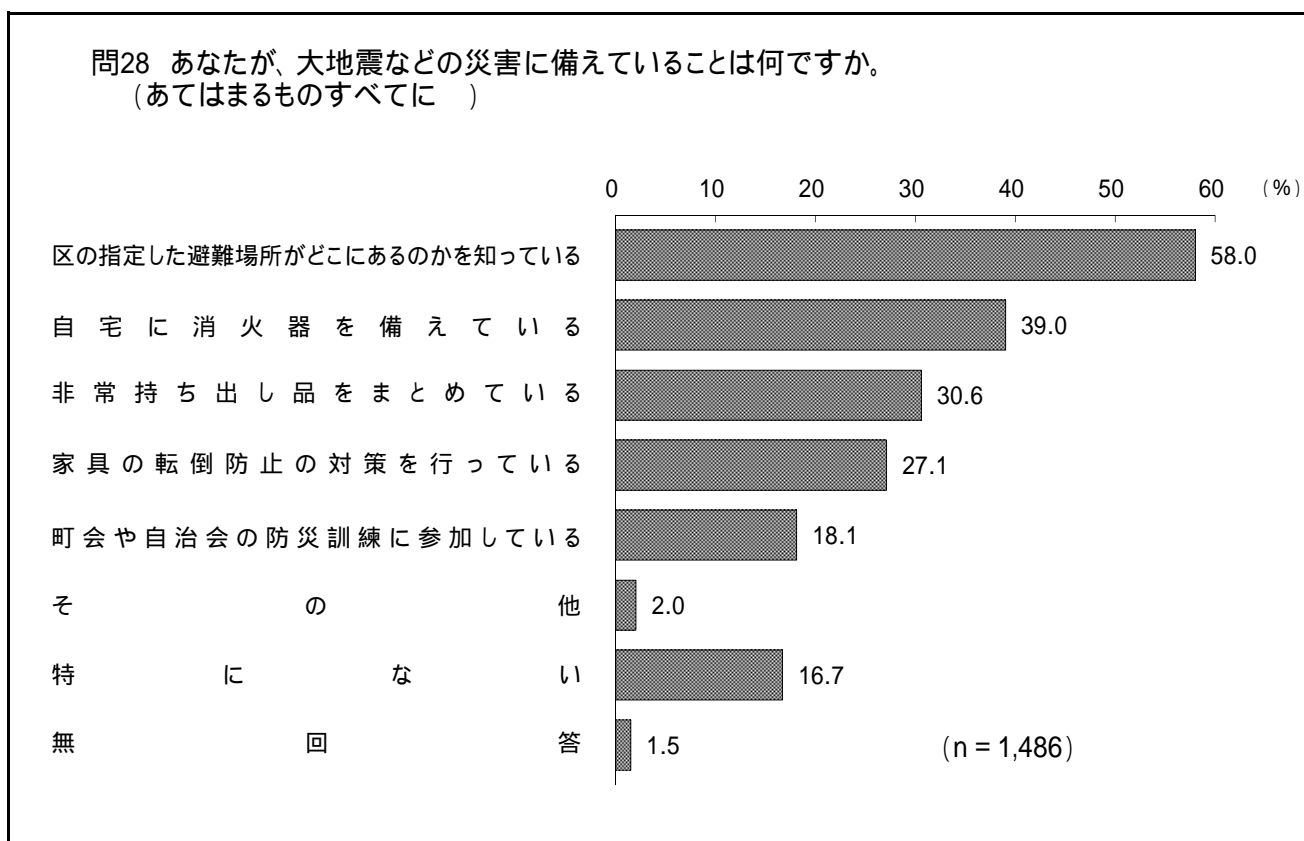
「節水や節電などの省エネルギーを心がけている」は、唯一70%台で女性60代の76.4%である。

図 4 - 1 - 1 環境のために心がけていること（性・年代別）



(2) 災害に備えていること

「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」が60%弱にとどまっている



災害に備えていることを聞いたところ、「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」が58.0%と断然多く、次いで「自宅に消火器を備えている」(39.0%)、「非常持ち出し品をまとめている」(30.6%)が上位にあげられている。

地域ブロック別にみると図4-2-1のとおりである。「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」では第8ブロックが唯一70%台(73.5%)で最も高い。

「自宅に消火器を備えている」では第2ブロックで50.0%と最も高い。「非常持ち出し品をまとめている」では第4、第5、第8、第10、第11、第12ブロックが30%台で比較的多い。

性・年代別にみると、図4-2-2のとおりである。「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」では男性60代、70歳以上が70%台で最も多い。「家具の転倒防止の対策を行っている」では男性70歳以上の唯一40%台(44.0%)で最も多い。

図 4 - 2 - 1 災害に備えていること (地域ブロック別)

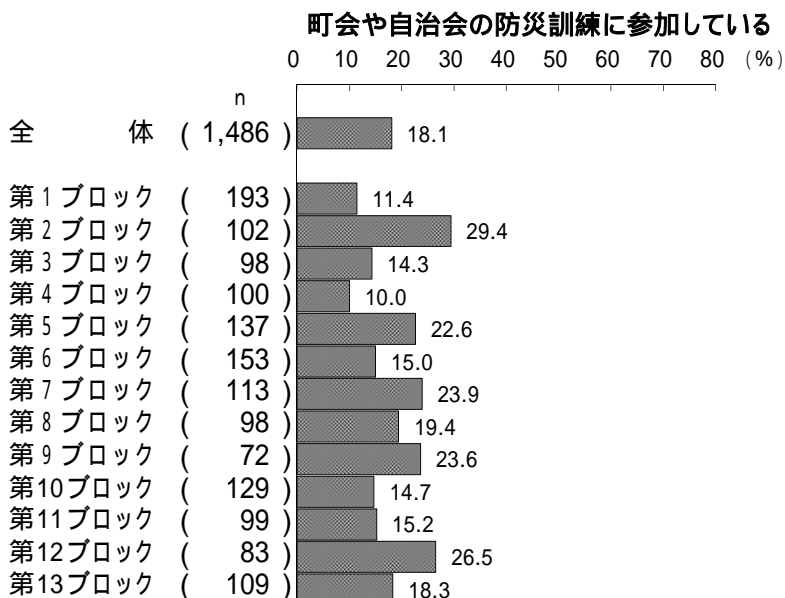
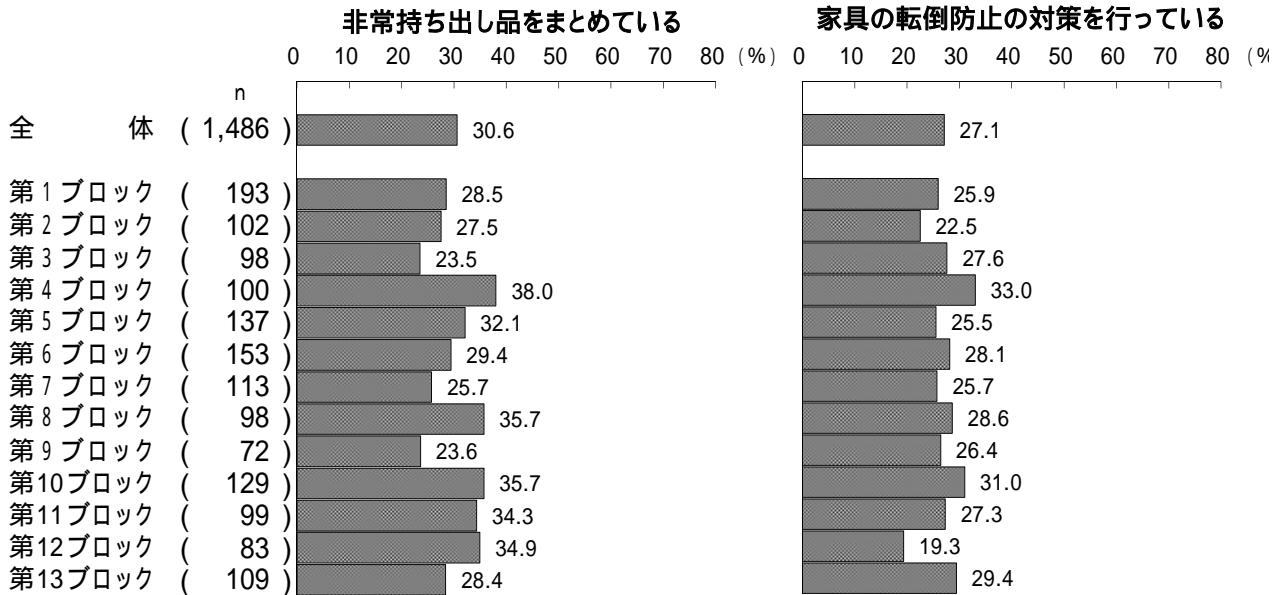
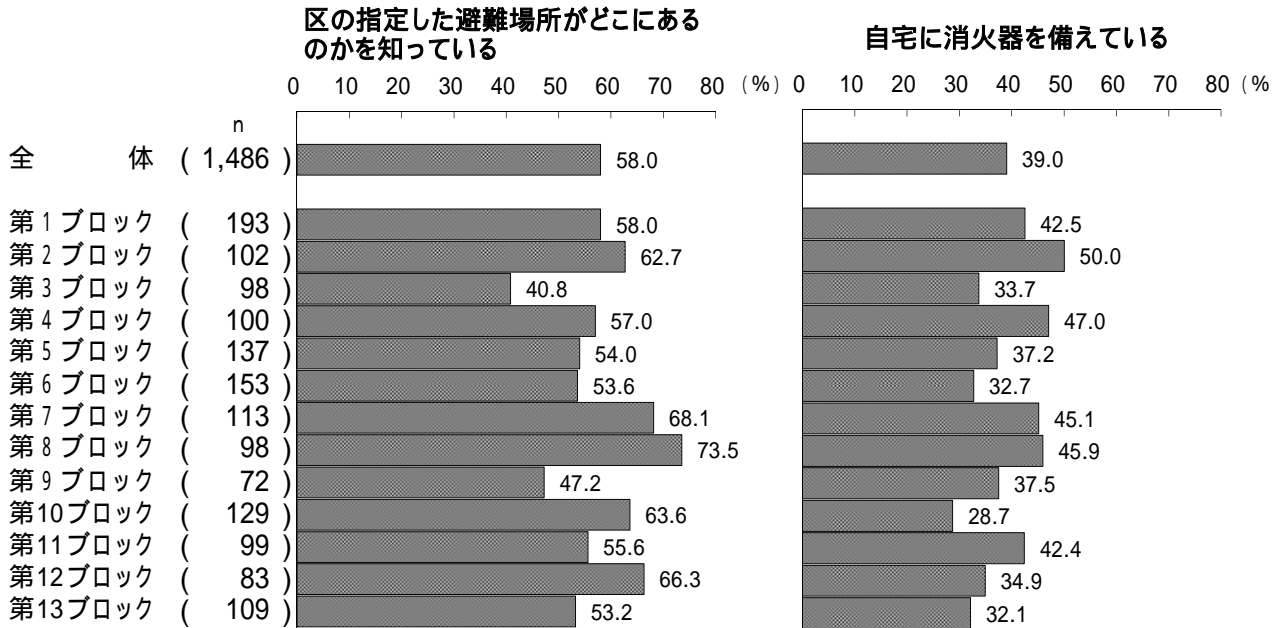
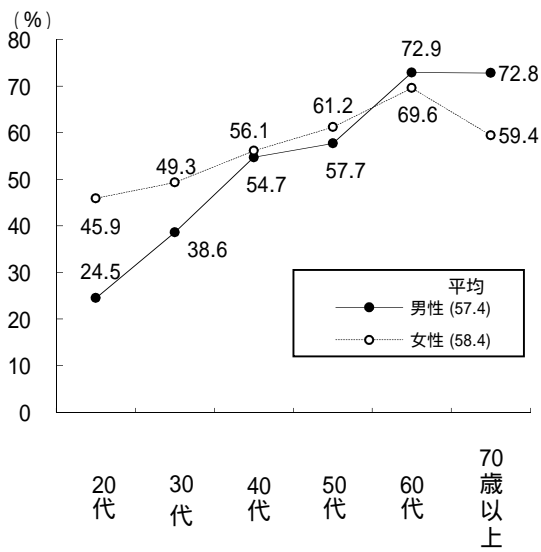
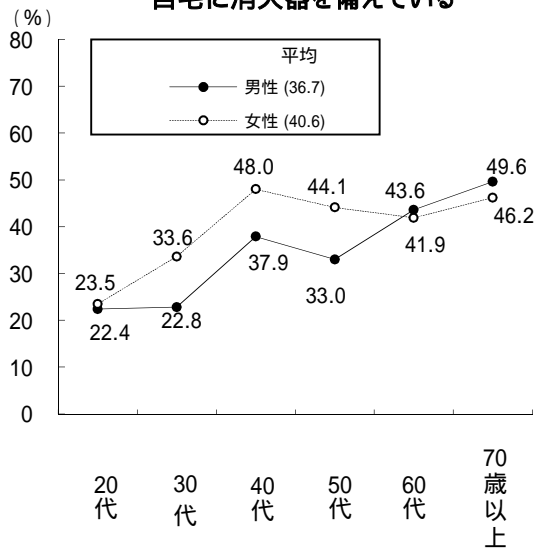


図 4 - 2 - 2 災害に備えていること (性・年代別)

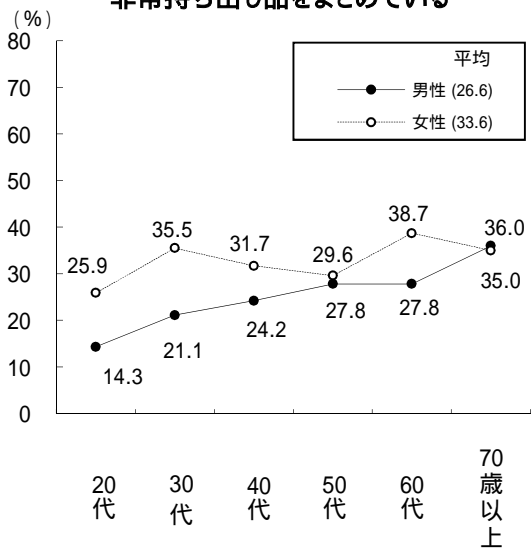
区の指定した避難場所がどこにあるのか



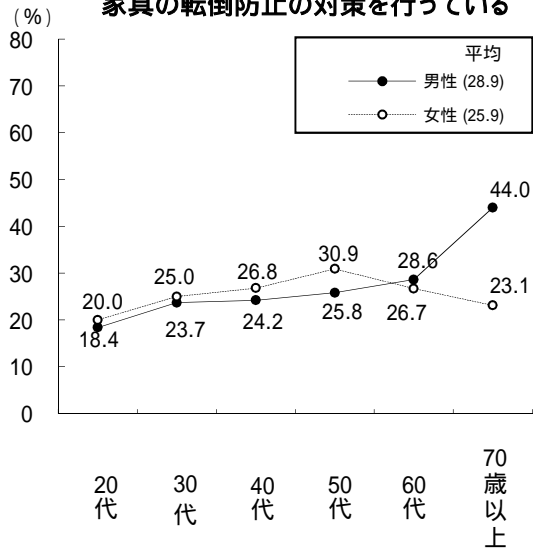
自宅に消火器を備えている



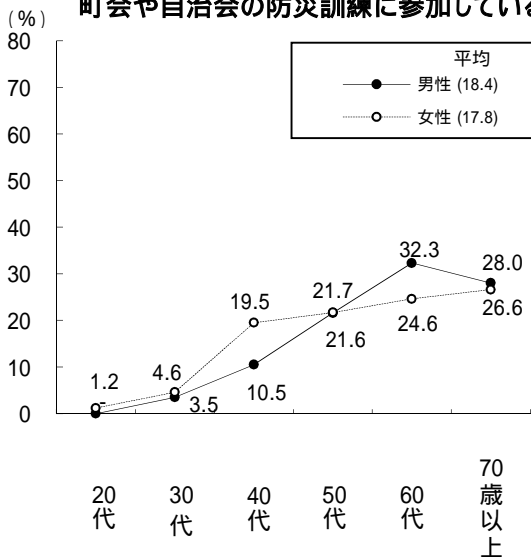
非常持ち出し品をまとめている



家具の転倒防止の対策を行っている

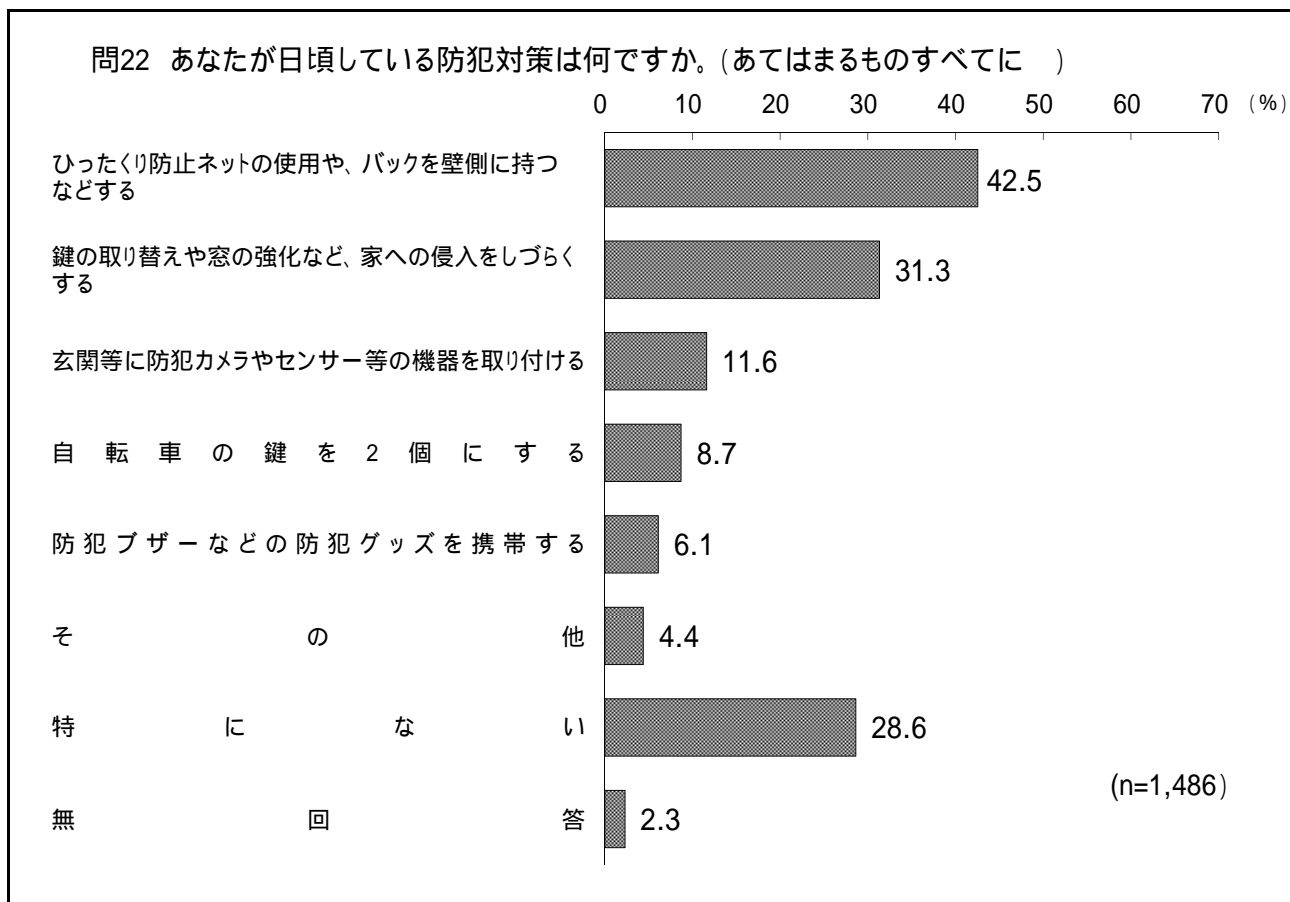


町会や自治会の防災訓練に参加している



(3) 日頃の防犯対策

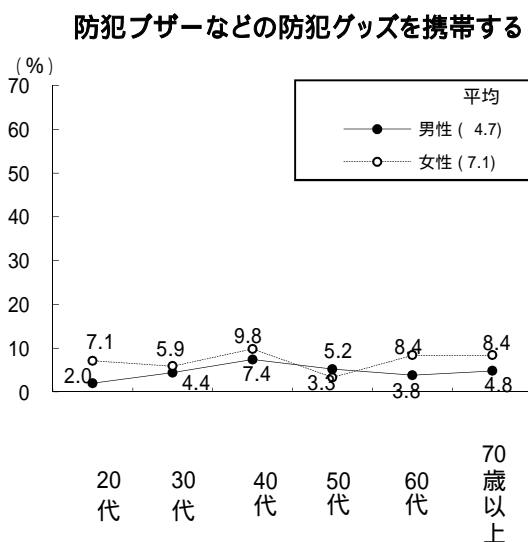
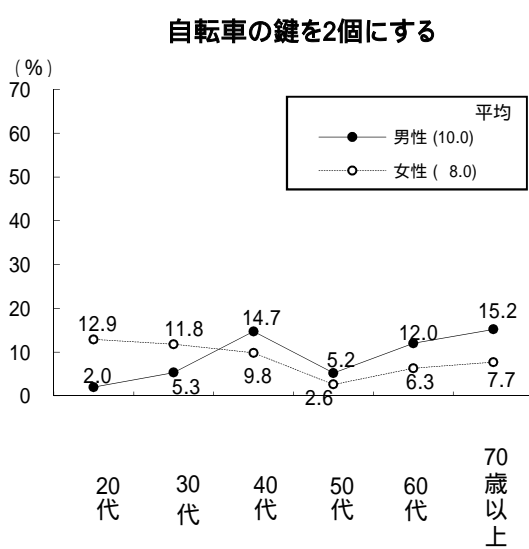
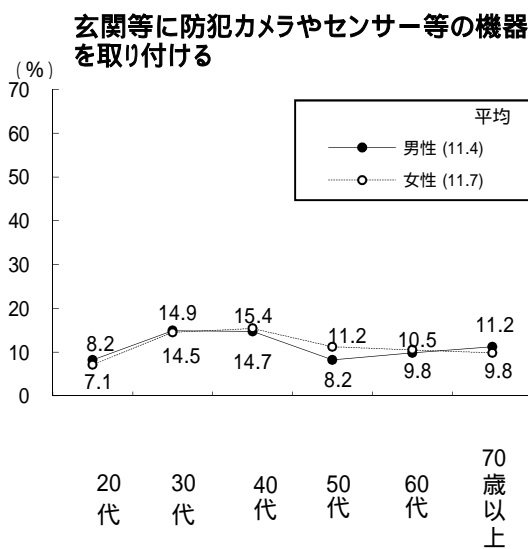
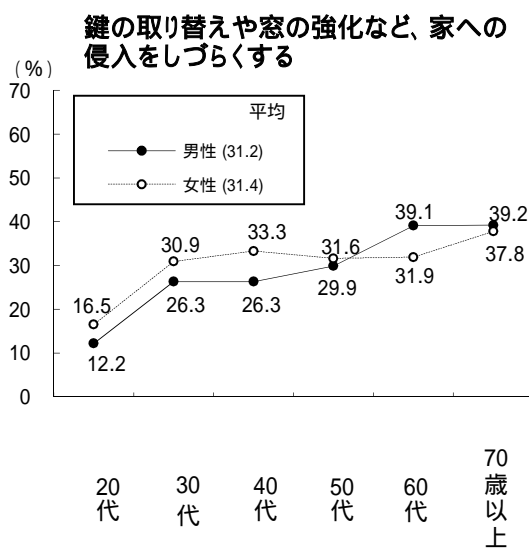
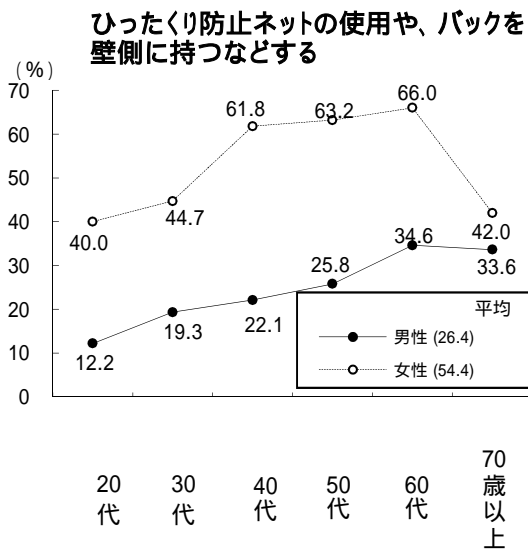
「ひったくり防止ネットの使用や、バックを壁側に持つなどする」が42.5%で最も多い



「ひったくり防止ネットの使用や、バックを壁側に持つなどする」が42.5%で最も多い。

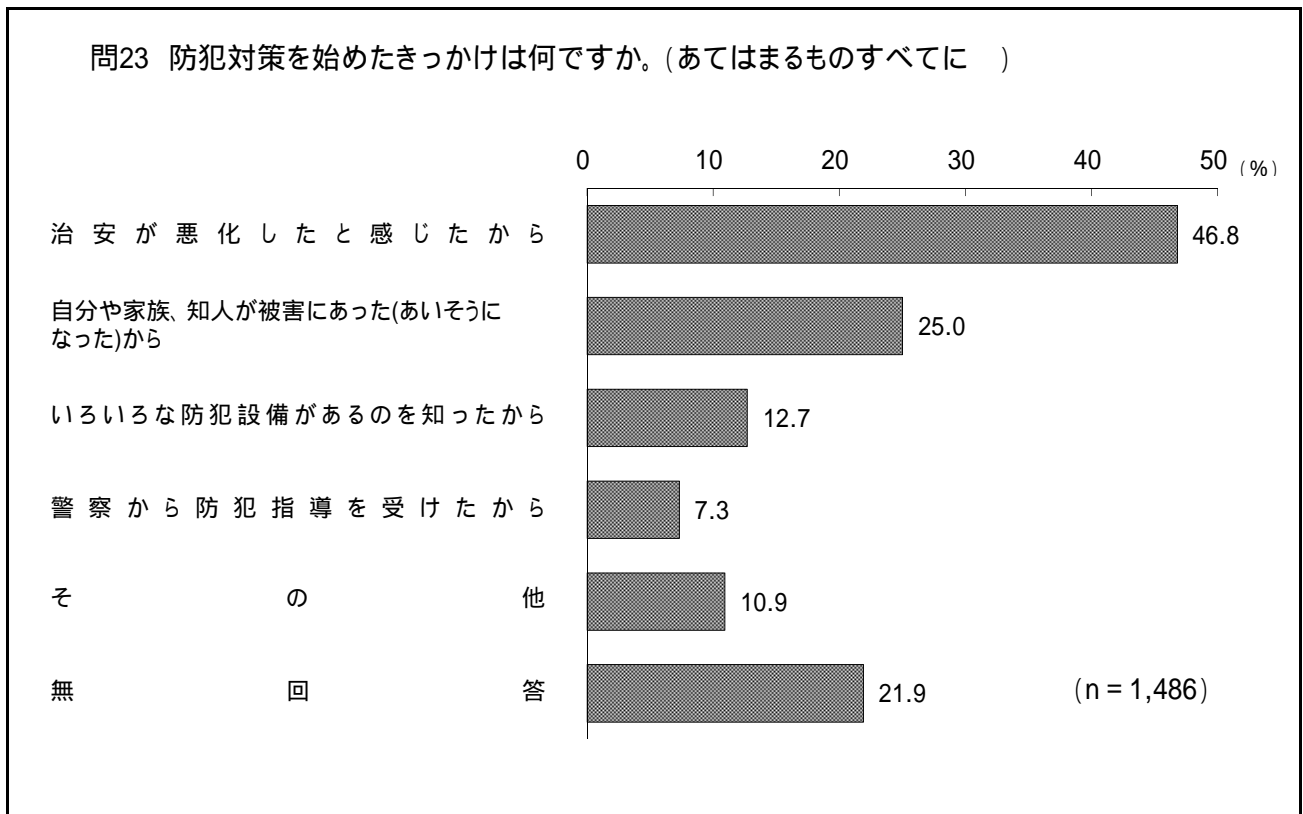
性・年代別にみると図4-3-1のとおりである。「ひったくり防止ネットの使用や、バックを壁側に持つなどする」が最多であるが、男女のひらきが他の防犯対策に比べ最も大きい。特に女性40代、50代、60代が60%台に対して同年代の男性は20～30%台である。

図 4 - 3 - 1 日頃の防犯対策（性・年代別）



(4) 防犯対策を始めた動機

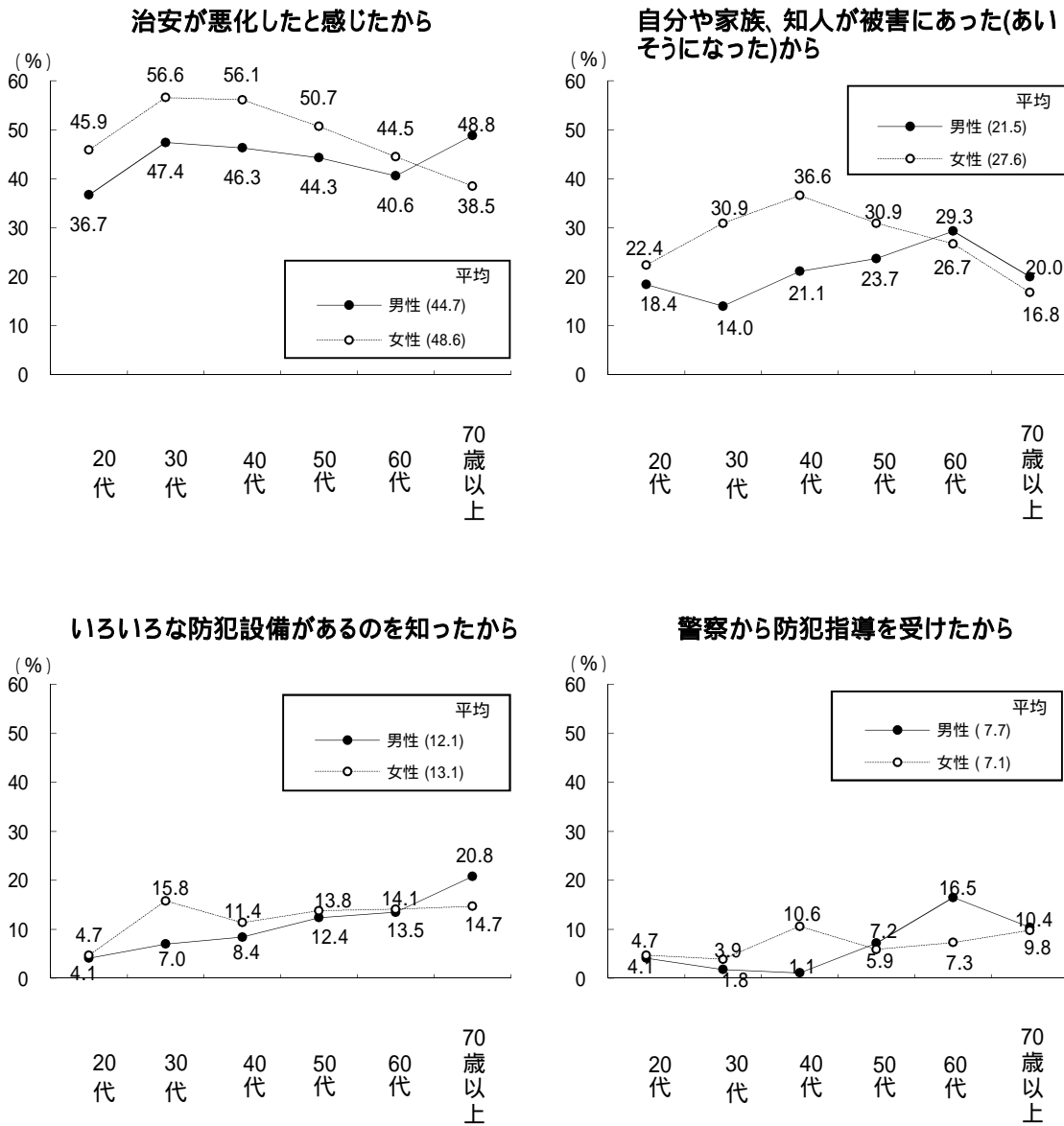
「治安が悪化したと感じたから」が断然多く50%弱



「治安が悪化したと感じたから」が断然多く50%弱である。

性・年代別にみると図4-4-1のとおりである。「治安が悪化したと感じたから」は女性30代、40代、50代が他の性・年代に比べ50%台が多い。同様に、自分や家族、知人が被害にあった(あいそうになった)から」もこの性・年代が30%台で他の性・年代に比べ多い。

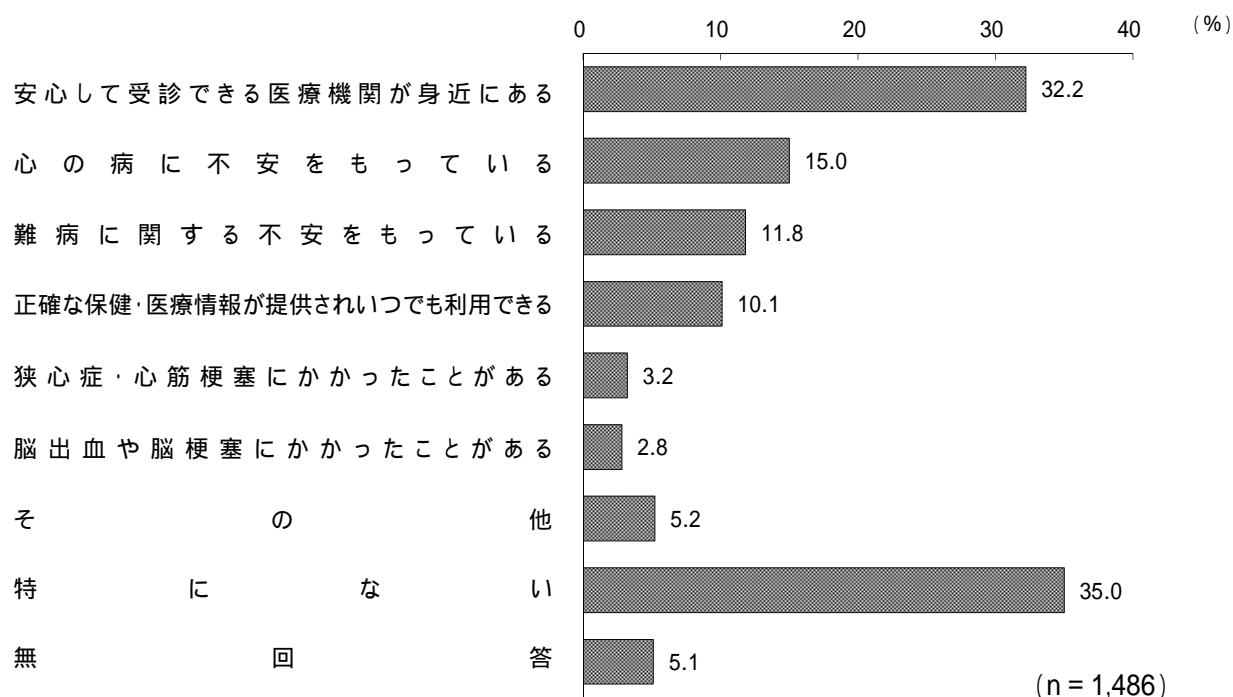
図4-4-1 防犯対策を始めた動機(性・年代別)



(5) 保健と医療

3人に1人が「安心して受診できる医療機関が身近にある」

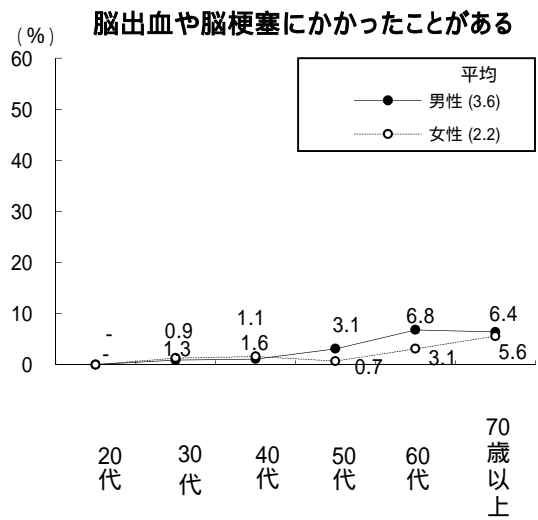
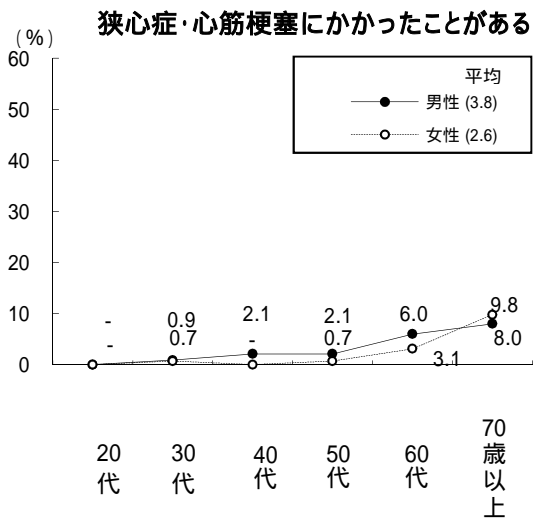
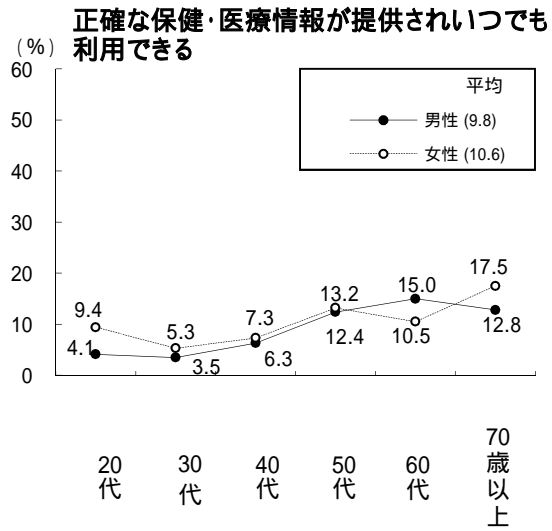
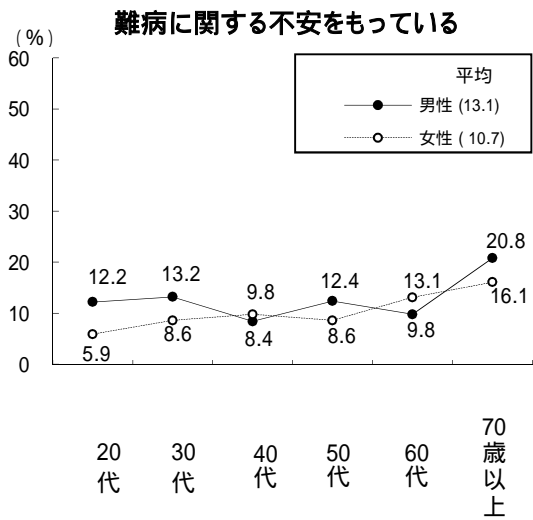
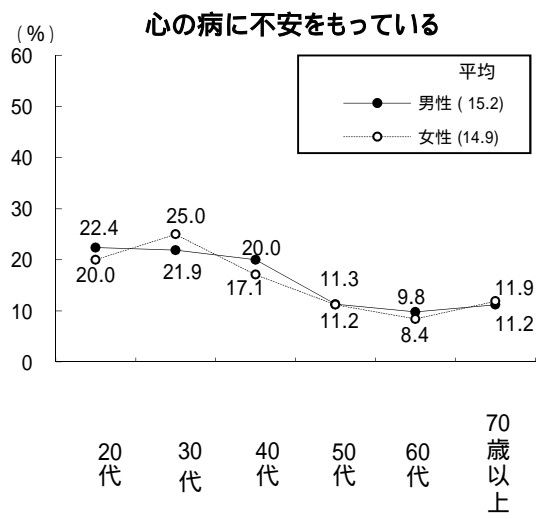
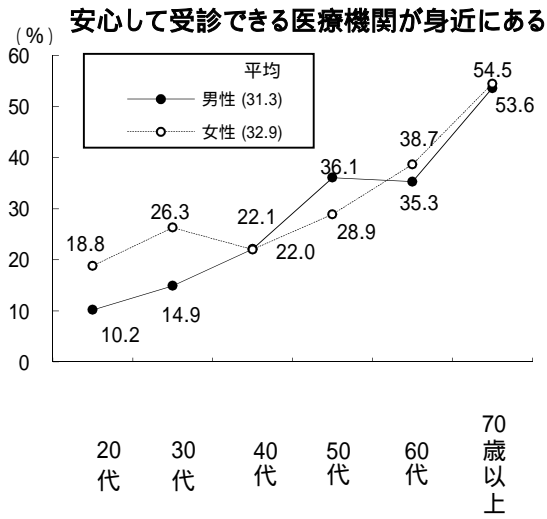
問24 保健と医療などについておうかがいたします。次の中からいくつでも選んでください。(あてはまるものすべてに)



保健と医療などについて聞いたところ、「安心して受診できる医療機関が身近にある」が32.2%と最も多く、次いで「心の病に不安をもっている」(15.0%)、「難病に関する不安をもっている」(11.8%)があげられている。また、「特にない」は35.0%である。

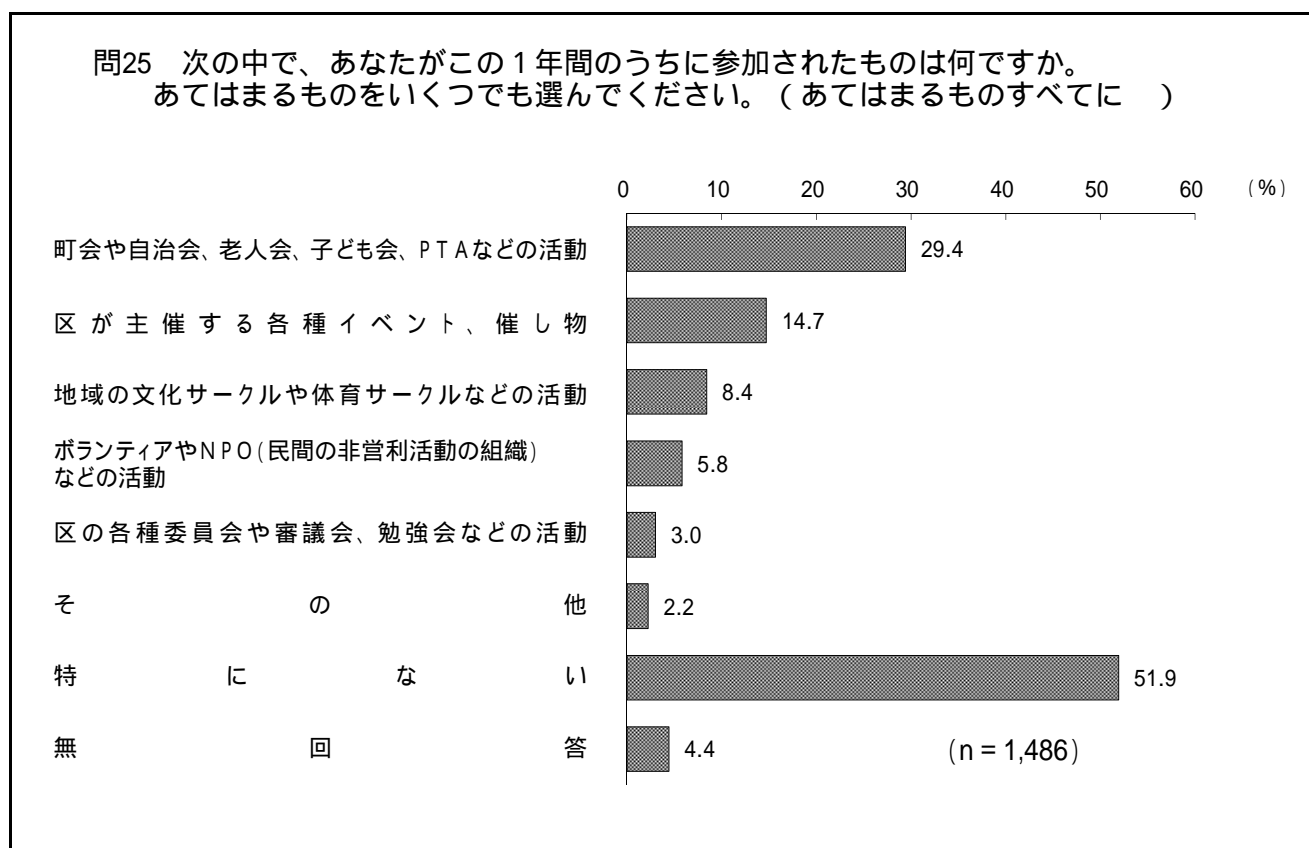
性・年代別にみると図4-5-1のとおりである。「安心して受診できる医療機関がある」は男女とも70歳以上で50%台と多い(男性53.6%、女性54.5%)。「心の病に不安をもっている」は20%台で男性20代、30代、40代、女性20代、30代が比較的多い。

図 4 - 5 - 1 保健と医療 (性・年代別)



(6) 地域活動の参加状況

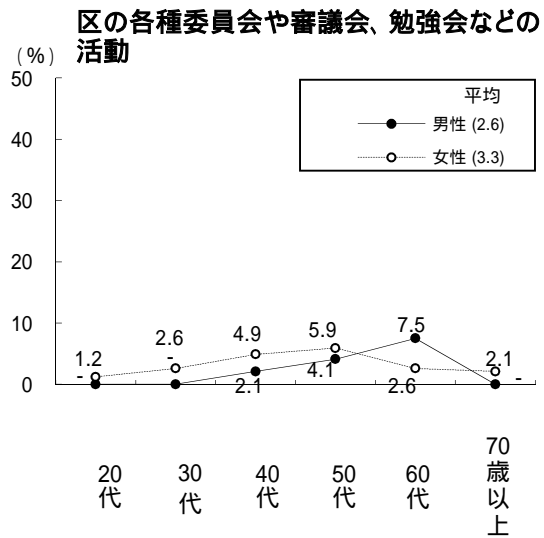
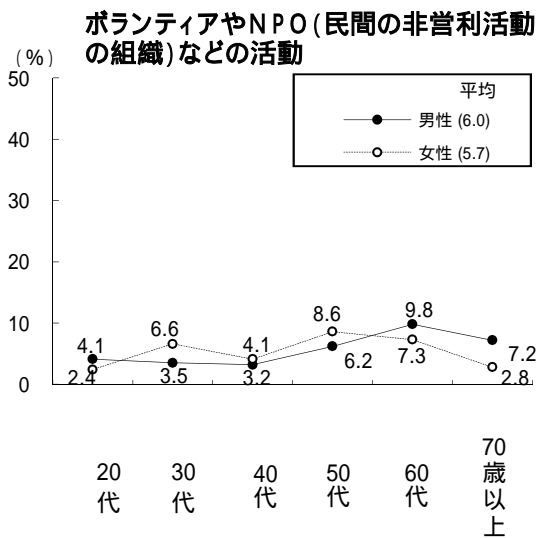
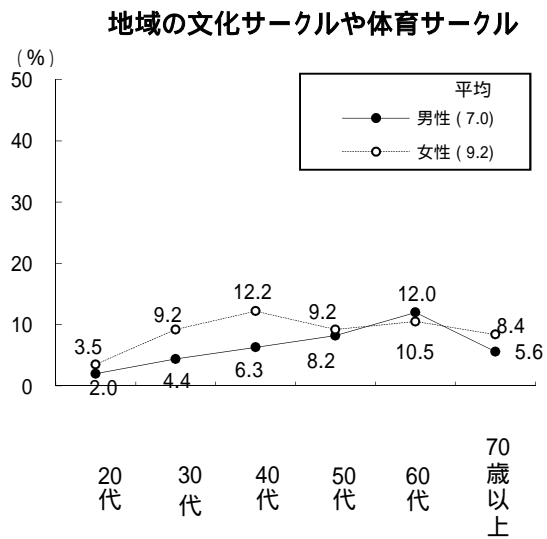
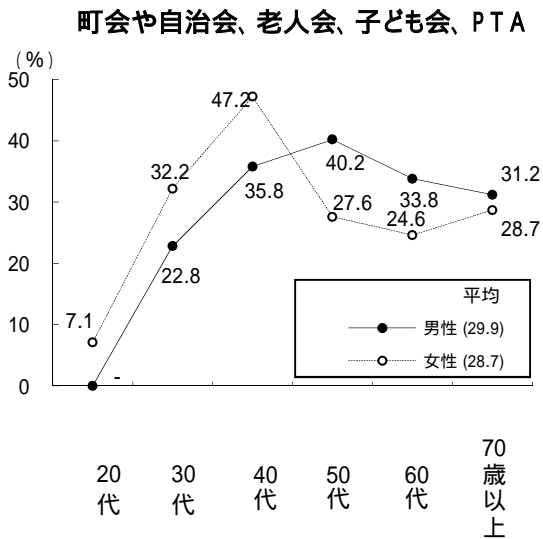
「町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動」が4人に1人



この1年間に参加した地域活動について聞いたところ、「特になし」が51.9%で、1/2強が参加していなかった。参加したものでは「町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動」が29.4%と最も多く、全体の4分の1以上である。次いで「区が主催する各種イベント、催し物」(14.7%)、「地域の文化サークルや体育サークルなどの活動」(8.4%)が上位にあげられている。

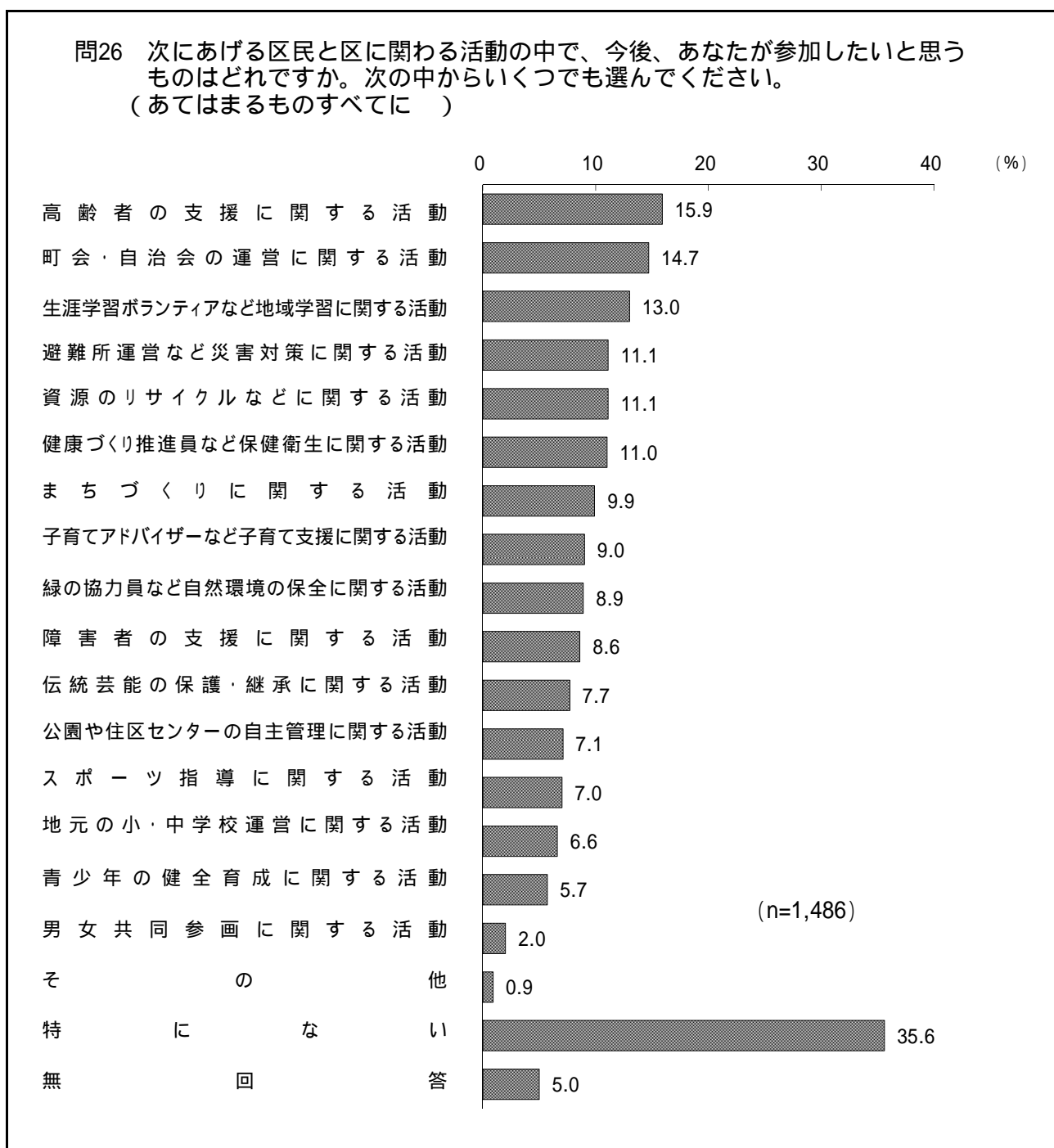
性・年代別にみると、図4-6-1のとおりである。「町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動」は女性40代で47.2%と最も多く、次いで男性50代(40.2%)の順となっている。他の活動は、どの性・年代も参加が少ない傾向である。

図 4 - 6 - 1 地域活動の参加状況 (性・年代別)



(7) 地域活動への参加意向

「高齢者の支援に関する活動」が15.9%で最も多い



今後参加したいと思う地域活動について聞いたところ、「高齢者の支援に関する活動」が15.9%で最も多かった。次いで「町会・自治会の運営に関する活動」（14.7%）、「生涯学習ボランティアなど地域学習に関する活動」（13.0%）で、10%台の参加意向率は上位3活動である。一方、「特にない」は35.6%で全体の1/3強を占めている。

性・年代別にみると図4-7-1のとおりである。

各々の活動に対する参加意向率のうち、20%台で比較的高いのは「高齢者の支援に関する活動」の男性70歳以上、女性50代、60代である。

「町会・自治会の運営に関する活動」では男性50代、60代、70歳以上である。

「子育てアドバイザーなど子育て支援に関する活動」では女性30代である。

図4-7-1 地域活動への参加意向（性・年代別）

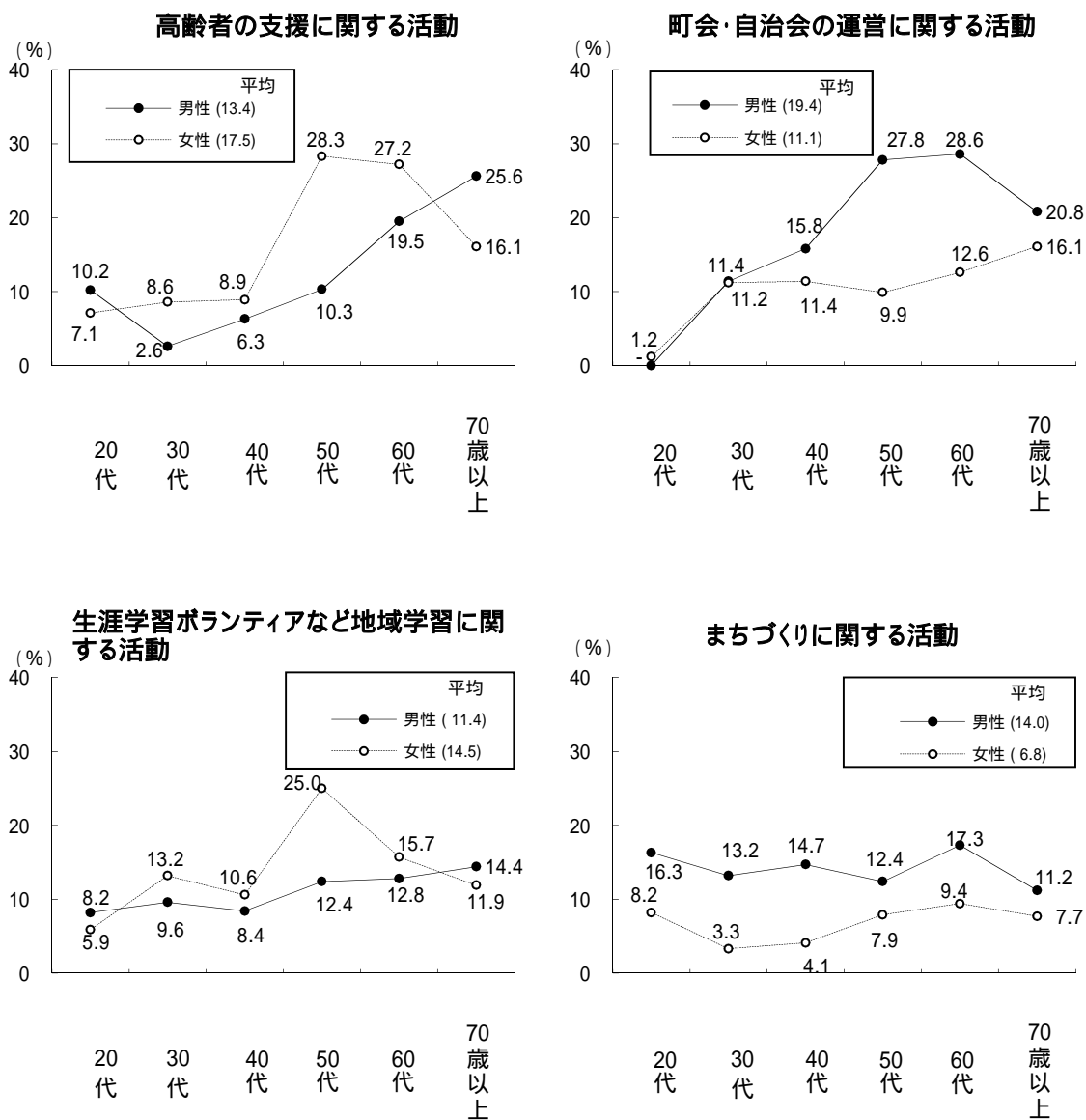


図 4 - 7 - 1 地域活動への参加意向（性・年代別） - つづき -

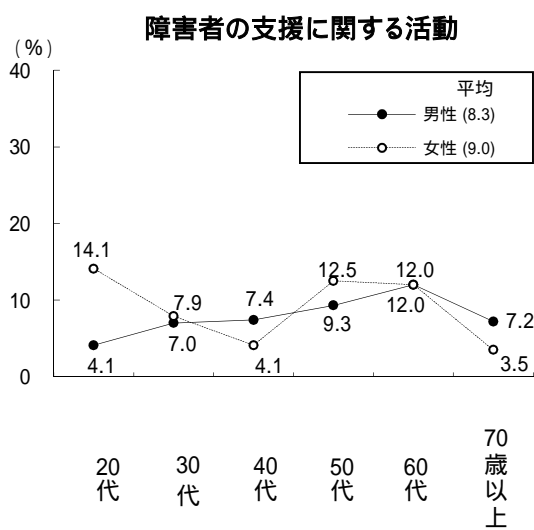
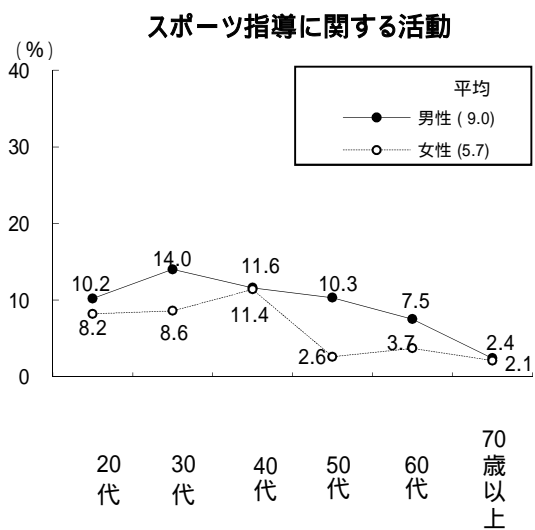
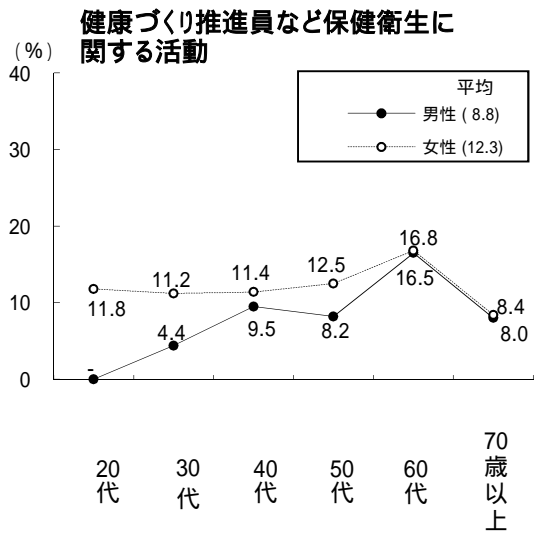
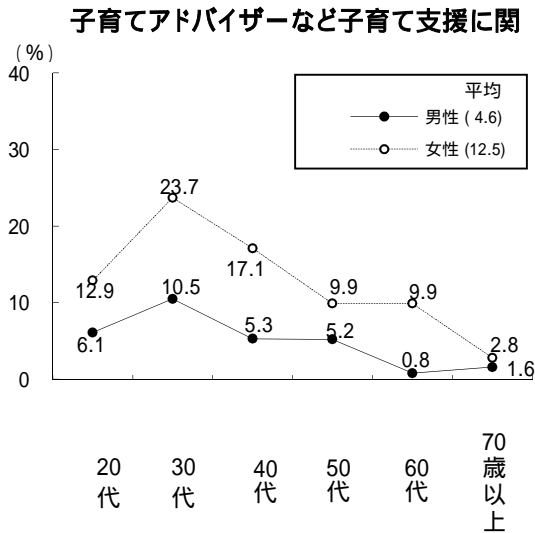
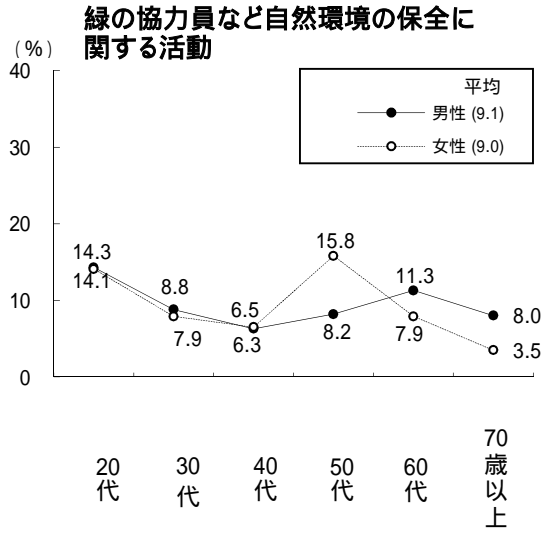
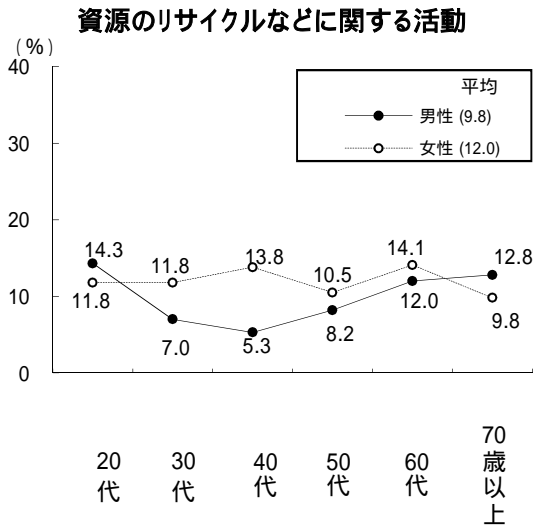


図 4 - 7 - 1 地域活動への参加意向（性・年代別） - つづき -

